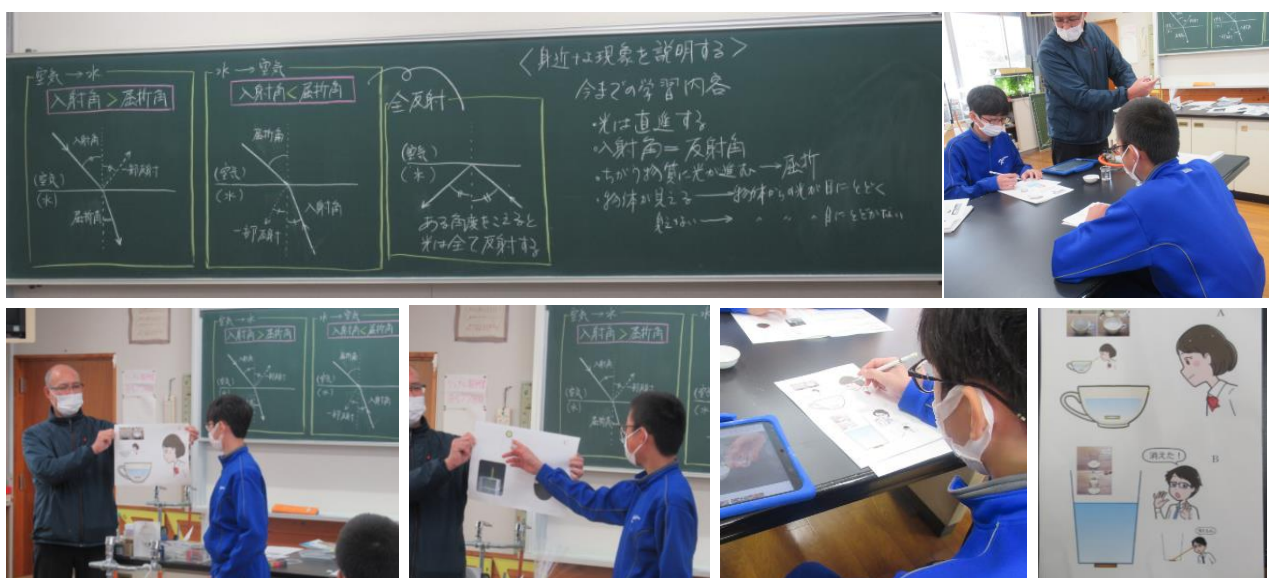


生徒が主体的に取り組む授業をめざして

1年理科

1年生理科で研究授業が行われました。単元は「光が通りぬける時のようす」です。光の屈折の実験結果と今までの既習内容を活用して、光の屈折によって起こる身近な現象を他の人に伝えるように説明できるようになることがねらいです。

「入射角」「屈折角」といった理科用語を用いるだけでなく、その関係性も理解した上でなければ、身近な現象であっても言葉で説明するのは難しいものです。最初は自分の言葉で説明することに難しさを感じていた生徒たちも、学んだことを黒板で確認しながら与えられた課題と関連付け、お互いに言葉で伝え合い補い合い、最後は見事に説明することができていました。



今回の課題は、参観した教員も唖る、なかなかタフなものでした！生徒の皆さん、お見事！

新しい学力観の中では、「学んだことを実生活で活用できること」がこれまで以上に重視されるようになりました。そのため、文系の教科だけでなく、数学や理科といった理数系の教科においても、思考を言語化することが求められる傾向が強くなっています。そのため、どの教科でも言語活動を大切にしながら授業を進めるよう、すべての教員が意識しています。従来のように生徒が一方的な知識の習得に終わるのではなく、その知識を活用しなければ解決できないような課題を与え、生徒の主体性を引き出していきたいと考えています。

学力向上の一番の鍵は、「主体的な学習者」を育てることかもしれません。明確なねらい、適切な課題、ふり返り、そして生徒同士のかかわり合いという要素を満たしていけるような授業づくりに、今後も励んでいきたいと思えます。



授業の最後に、ふり返りのポイントを示しています。